WASON
PL
...
C741

Dec.
1888
No. 14.

一冊五錢

當府内無郵稅

版權所有

各土曜日出版

明治廿一年（第百四拾號）十二月十五日發

社説
將來の日本人民（第四）家庭の母

論説
日本人民は美術心に富める乎（大西祝）○海外拾遺第一（婚姻の外に教育さる可からず）（日野武治譯）

批評
文部大臣の女子教育論○尾崎行雄氏東西婦人の異同○杵の批評の轉評○文覺上人勸進帳を讀む（二）

雜話
英國總理大臣の女子投票權の議○萬國赤十字社大會の盛（二）○婦人の德は余輩に有り（中島俊子）○婦人衛生一斑（櫻井郁次郎）○島田三郎君の通信

小説
折女の卷

佳傳
リンダギルバート孃

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

MASON
PL
C74?
Dec. 15
1888
No. 140

明治廿一年（第百四拾號）十二月十五日發

社說
將來の日本人民（第四）家庭の母
論說
日本人民は美術心に富める乎（大西祝）○海外拾遺第一（婚姻の外に教育さる可からず）田中武治譯
批評
文部大臣の女子教育說○尾崎行雄氏東西婦人の異同○杯の批評の轉評○文學上人勸進帳を讀む（二）
雜話
英國總理大臣の女子懲戒の說○萬國赤十字社大會の盛況（二）○婦人の德は全備に在り（中島俊子）○婦人衛生一斑（櫻井都次郎）○島田三郎君の通信
小說
折女の卷
佳傳
リンダギルバート孃
寄書
新報
外報
小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 140. DECEMBER 15TH, 1888.

EDITORIAL:— The Future Japanese Nation (The Mother in the Home).

LEADING ARTICLES:— Japanese People and Art. by Mr. H. Onishi. Pickings while at Abroard. by Mr. T. Tamura.

CRITICAL NOTES:— "Minister Mori's Views on Female Educations." "Women of the West and of the East." "A Reply to Criticism made on Sui." "Mongaku Shonin's Kanjinchiyo."

MISCELLANIES:— "The British Primeminister's Views on the Questions of Woman's Suffrage." "Woman's Silent influence." "Hygiene for Womans" (Mr. I. Sakurai).

NOVELS:— Tetsujo no Maki.

BIOGRAPHIES:— Linda Gilbert.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

通信女學 第拾五卷 發兌

十一月廿九日出版せり

一部定價廿錢 紙數七十枚

講じ最良の教科書

內婦人の須要の智識に適せり

●京濱間女學校職員表（廿一年十一月調）（其一）

○海岸女學校（築地十三番）

設立 明治七年十一月 生徒現數 一〇五人

校長 ワットソン 役員 スペンセル

教員 パーアドノア○コルバック○タマヲ○星野飯○久保ふゆ○本多ゆき○酒井たか○櫻井ひで○名越たま

○聖經女學校（横濱二百十番）

設立 明治十八年九月 生徒現數 三〇人

校長 バンペテン 役員 山田小梅○岡田エツ○石岡ハル○門塲ノヘ

教員 バンペテン○河村天授○稻垣スヘ○大庭キノ○林壽○桝谷コウ○佐々木フサ○ルーラフツン

○跡見女學校（小石川區柳町）

設立 明治九年 生徒現數 一六一人

校長 跡見花蹊

教員 東三條公恭○菊地熊二郎○宇都宮平一○サンマース嬢○松見文平○鈴木弘恭○渡邊重石丸○外助教師十一名

○共立女子職業學校（神田區一ツ橋通り町）

設立 明治十九年八月 生徒現數 二五四人

校長 服部一三

○長榮女塾（小石川區小日向台町）

設立 明治十六年七月一日 生徒現數 三八人

校長 淺井さく 役員 淺井元光

教員 ツルー○淺井くら○土肥直康○植田榮○山之內きみ○竹尾古登○福島仲○星野湊俊

○水交女塾（芝區櫻田本郷町）

設立 明治五年一月八日 生徒現數 二〇人

校長 星野康斎

○文教女學校（築地八十三番）

設立 明治十年 生徒現數 六九人

校長 ミス、リテツク 役員 小宮たま

教員 ミス、スプレク○福島まな○松原いく○大澤なを○林うた○ミス、フルベツキ

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百四十號　明治二十一年十二月十五日發兌

社説

○將來の日本人民。

四。家庭の母。

既に幼稚園の何物たるかを知らば、則ち亦た推して家庭敎育の何物たるかを知るを得べし。家庭は蓋し小さき幼稚園の如きもの也、茲に極めて深切なる保姆あり、之を母と云ふ、茲に多少の弟子あり親しく保姆に護らる、之を子供と云ふ、室は狹しと云へども快よく踊るに足るあり、玩具は乏しきと云へども亦た用ゆるに足るなり、庭敷尺固より廣大ならずと云へども、一二の婆娑たる老木は亦以て鬼隠れを戯るゝに足るなり、況んや其の更らに宜しきは、幼稚園に於ては、彼起るとき眠るときに保姆の恩言を聞くとを得ざるに、茲には、朝日始めて東窓に映ずる時、母はすでに温顔を以て彼等の眠れる面上に笑ふなり、又た日没し月既に高く正に伏床に入つて倘ほ未だ眠らざる時、母は則ち愛絶の歌を謡つて彼等をして安んぜしむる也、而して彼等の遊戯和樂するとき、母は往々保姆の如くに之を看する能はぬともあるべし、然れども其の機に上つて尤も忙がわしく織るとき、若くは庖厨に隠れて尤も忙がわしく調理するとき、僅かに其の顧みて一笑するは之れ彼等に於ける最大無上の指令語となるべし。左れば一家内の家庭は實に其の幼稚園なるのみならず、寧ろ幼稚園に於て未だ得べからざるの便益は、始めて之を家庭に於て得らるべきものなり。

此故に、凡そ幼稚園の大切なるとを知るものは、則ち亦推して家庭敎育の大切なるとを知り、幼稚園の効能の非常なるとを知るものは、則ち亦た家庭敎育の効能の非常なるとを知り、而して其の大切なる事非常なる事は、家庭敎育に於て更らに一層に太甚しきとを知るならん。然るを況んや、今の日本國に於ては幼稚園なるものゝ存すると至つて稀にして、之を西洋文明國に行わるゝの有様に較ぶれば寧ろ倘ほ皆無なりと云ふも至當なる程なれば、凡そ幼稚園尤も隆んなるの文明國に於て倘ほ家庭敎育の大切なるとを極論するを知る時、日本國の如く殆んど倘未だ幼稚園あらざるの國に於て家庭敎育の更に尤も大切なるとは極めて明白ならん。左れば、日本國の家庭は元來それ〳〵に既に幼稚の敎育園たるなり、而して他に所云る幼稚園なるものゝ存せざるを以て、彼れ更に併せ

て眞正の幼稚園の名代となるもの也、故に若し此の家庭に於ての教育宜しきを得ずんば、最早外に其子を教ゆるの保姆あるなし、最早外にフレーベル氏の意見の行はるゝ所ろあるなし、最早外に彼の尤も感化し易き子供をば其の尤も正當なる道に於て感化するの學校はあるなきなり。日本の家庭教育は總ての文明國の家庭教育よりも多くの責任を負へり、日本の家庭の母は總べての文明國の家庭の母よりも多くの責任を負へり。

責任如此く重大なりとは云へども、此の大責任の全く母の一身に荷はせらるゝは、吾人反つて大ひに之を祝するなり。抑もあらゆる教師の中に於て、母ほどに切に其子弟を思ふものはあらず、故に亦た、母ほどに強く其子弟を感化するものはあらず、左れば母が尤も切なる尤も正當なる教への下には、子弟の心身に潜そむ總べての天然力は皆な悉く開發せらるゝあり、ロウソウ曰く「子供をして有の儘に生長せしむれば彼等は其母を以て自身を創造りたるの神なりと思ふべし」、ウイリアムゴッド井ン曰く「子供の心中に起る自然教は他なし即ち其兩親を崇拜するヿあり」と、蓋し適當に生成する子供は、父を以て無上の利口なるものとし、母を以て無上の愛あるものとし、天下之よりも他に尊とむべく頼るべき者あらずとは覺悟する也。子供が其の母に於けるの愛は如此くに切なるものなり、而して其母が子供を愛するの愛は更らに之よりも切なり、故に「凡そ人性の稟質を尤も正當に開發するは愛育なり」との議論も確かなりとせば、彼のペスタロッチ、ロウソウ、フレーベルより近代のスペンサーに至る迄の議論正當なりとせば、即はち、母は是第一の教師、母の愛は是第一の開發者、母と子とは是天下第一の學校を組立る所ろの師弟なるべし、之を以て子弟の心理を熟知し、幼稚園に尤も熱心なる、ピーボデー孃は如此く云へり、曰く「世の教師は其子弟の才能を愛する也、母は其の子弟彼一身を愛する也、故に尤も能く子弟を開發して、其の自然力を尤も圓滿に發達せしむるは即ち母なり」と。母の感化は如此しと聞けり、故に子供初代の教育の全く母の手に托せらるゝは、彼が責任の極めて重大なるを知ると共に、其決果の亦極めて立派なるべしと信じて之を祝するヿを得る也。

但し母の責任は只だ其の子供の初代の教育にのみ關はるにあらず、實に彼等が一生涯の上へに關するもの也、故に男女生れて六七才に達し、既にして小學校に入り、中學校に入り、

大學校に入り、大學校を卒業して既にして學者となり軍人となり將相となり商人となる、其の何れの時に於ても母の教育の眼には常に之と伴侶せざる可らず、實に能く之に伴侶して一生涯彼等が方向を導くの教師となるべしと雖ども、然れども、彼等を尤も多く感化し得るの時代は即ち其の幼稚の時にあるを以て、母が尤も多く彼等を感化せねば成らぬは即はち亦た彼等が幼稚の時にあり、既に長じてよりは少年の氣剛鋭にして容易に父母の言を聞かず、况んや中大學の教師の忠告をや、此に至りては彼等たゞ父母教師の教へを聞かざる耳にあらず、實に彼等自身が心中の良知にだも聞くを得ざるものとなるべし。故に教ゆべきは初代にあり、人世一生の正邪善惡は悉く是れ六七才に至る幼稚の年代に於て岐るゝと知べし、此に於てか家庭教育の彌よ大切なるを知り、家庭教育の彌よ大切なるを知るに隨つて、いよ〳〵亦母の責任の重大なるを知る也、然らば則ち將來の日本人民を尤も正しきに感化せんとするの母は、其今日に負ふ所ろ果して何如。

他なし、先づ謹嚴剛正の種子を子供の尤も軟らかなる頭上に播附くるにあり、此時に於て播附たる種子は年と共に大きくなるべし、異日遂に天に達するの大木とならんと決して望み難きにあらず、故に古人は、母の感化を以て幼木に印を刻むに喩へたり、此の幼木に刻み付たる印しは年と共に廣ろがり、永久永遠決して之を磨滅す可らず、遂に全木一躰の符徴となりて存すべきなり。左れば母が吹込みたる正氣は見へざるの所ろに入れり、然れども此の正氣は渾沌たる幼稚の頭腦に印刻せられて、其の整ふがまに〳〵、其の伸長するがまに〳〵發達して、遂に後年顯世界に勃出すべし。故に吾人は歴史上に於て、未だ嘗て一婦人が暴逆を破りて一大自由政府を打立たるを聞かず、未だ嘗て一婦人が歐洲を席卷する大虎狼軍を打破りたるを聞かず、未だ嘗て一婦人が數万人を感化するの大宣教師となりたるを聞かず、未だ嘗て一婦人が千古に卓出し万世を支配するの大正論を組立たるを聞かずと云へ共、然れども古今義人の傳紀上に於ては、吾人は實に一婦人が能く此如き大偉業を成し得たりしとを確認する也。吾人は確認したり、エリサベス夫人ありて后ちクロムエルは生れたり、マルガレット夫人ありて后ちルーテルは生れたり、マリー夫人ありて后ちワシントンは生れたり、エルリントン夫人ありて后ちエルリントンは生れたり、又彼の大教師アウゴスチンにはモニカと云へる母ありし、同なじくエスレーにはスウサン

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ナと云へる母ありし、彼の小說界に一理想天國を開きたるシエクスピアには、マリーアルデンと云へる母ありし、天に星あり人に靈性ありと云ひたるカントには其の尤も尊敬したるカント夫人ありし、高論潔叫したる大道德教師カーライルには亦マルガレットアイトケンと云へる母ありしと確認したり。彼等が母より出で來りたる謹嚴剛正の氣象は、即はち彼等が滿腔を通し、全躰を通し、事業を通し、大自由國大哲學論を通して、而して萬世の下、十九世紀の文明世界全躰に蟠かまる也。

故に日本國に唐朝平家の若殿原を充滿せしめんと思はず、羅馬佛蘭西の風流才子を充滿せしめんと思はず、其の政治上にはクロムエル、ワシントンの如き凜潔なる大英雄あらんことを欲し、其の軍人にはエルリントンの如く忍敢正直の剛傑あらんことを欲し、其の改革者にはルーテルの如き非凡正大の卓人あらんことを欲し、其宣教者にはアウゴスチン、エスレーの如き至善至潔の義人あらんことを欲し、其文學者にはシエクスピア、カント、カーライルの如く眞摯正善なる大學者あらんことを欲せば、今の日本の母たるものは即はち亦た彼等の母の如くあらざる可らず、若し全く彼等の母の如くならば將來の日本人は即はち全く彼等の如くなるべし此に於てか日本國は安全ならん、若し全く彼等の母に似ることを得ずんば將來の日本人は即はち全く彼等に似ざるものとなるべし此に於てか日本帝國の爲めに慟哭するもの幾千万人ぞ。

謹んで如此く日本の女流惣躰に告ぐ、而して今の家庭を見るに、又今ま現に母となれるもの及び將に母とならんとするものを見るに、吾人は今に於て先づ大ひに慟哭せざる可らず、然れども吾人は今ま之を茲に細述せず、諸君たゞ乞ふ自から省りみて其の責任を思へよ。

誰か荊棘より葡萄をとり、蒺藜より無花果を採ことをせん」。然らば何んぞ輕薄なる浮れ女より豪傑を生じ、淫猥なるたはれ女より義人を生ぜんや、吾人は將來の日本人民が大ひに剛正謹嚴ならんことを切望するが故に、先づ其の母たるものに就て其の剛正謹嚴ならんを切望す、而して其の母の如此くあり其の子の亦た此如くあらんことを切望するが故に、今ま家庭教育の先づ極めて謹嚴剛正の德を重んぜんことを切望する也、一つの欺きも此内に行わる可からず、一つの輕薄も此の内に入る可からず、先づ上帝を信じ、眞理を愛し、同胞の爲めに死し、正義高德の爲に全身を犧牲にするの極めて至當なることを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を敎ゆるの空氣充滿せざる可らず、カーライルは其の記錄中に記して、云へり、

余が母は總べての母の中の尤も善き母なりし、余は母に對して限りなきの謝恩を負へり、神の惠に因り、余が母は今も尙ほ余が頭余が心として余に殘されたり、若し神許し玉はゝ、願くは余が多くの困苦の間だに於て、母が恭敬なる英氣に因りて余を慰さめしめ玉へ。

カントも亦た、其母に就て云へり、

余が母は愛深く情切にして恭敬正直なる母にてありし、而して其の恭敬ある敎へと有德なる摸範とによりて、神を恐るゝことを余等に敎へ玉ひたり。

アウゴスチンは云く、

吾が母は死するに臨んで如此く云ひ玉へり、云く余が死躰は何如ようにともせよ、之が爲めに決して汝ちの心を煩はす勿れ、只だ一事を申置く、汝ち何處にあるとも必ず余れを神前に於て記臆せよ。

ワシントン、遂に英軍に打勝ち、凱歌高く軍馬勇み、歡呼せられて母の村に歸る、母は白巾を着けて臺所に働らき居れり、ワシントン徒歩して到る、母は云く、

ゼウジよ歸りしか、

未だ甞て其の軍功を賞せざる也、而して餘人に向つて云く、

彼は善人なりしゆへ、其程の事は出來申すべし。

嗚呼吾人は日本の政治家が如此く純潔に、學者敎師改革者が彼の如くに正大ならんことを欲す、故に亦た其母の彼等が愛慕するが如きものあらんことを切望する也。

トーマス、チトエーの詩に云く、

The Mother, in her office, holds the Key
of the Soul; and it is, who Stamps the Coin
Of Character, and makes the being, who would be a Savage
But for her gentle cares, a Christian Man;
Then Crown her Queen o' the World.

蓋し云ふ、母は靈魂の鍵を所持せり、品質の印を打つは母、野人を變へて義人とする亦母なり、如此き母こそ全世界の女皇たる冠を戴くべきあれ。

列子に曰く昔し愚公と云ふ人あり家居近く山のありしを厭ひ外に移さんとし日々子供を引き具し手から耒耜をとりて一簣づゝ毀ちとる智叟之を見て嘲て云ふ斯く大なる山を僅なる人の力にて毀たば何の時にか盡んと愚公曰く我代より毀ち初め子孫の代まで相繼ぎて止まざれば終に毀ち盡くすべしと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

○日本人は美術心に富める乎（其二）　文科大學　大西祝

今迄陳述した所に由て考ふれば、美術の中にて、詩歌が、如何なる位地を占めて居るかと云ふことは、大概推知することが出來る、即ち詩歌は美術の中で最高の位地を占めて居るものである、詩歌の物質は言語であつて、其法則は言語を支配して居る文法、即ち建築彫刻の物質的の法則とは違つて、論理的の法則である、言語は思想に抵抗しないばかりでなく、思想の外界に表れたものに過ぎない思想の衣物に過ぎない、去れば美術の三要素の最もよく調和したものは詩歌である、又詩歌には調格と云ふものがあつて、語音をよく調和してあるから、此點に於ては、音樂と同樣の妙處がある、又自由自在に如何なる思想でも、如何なる感慨でも、寫し出だすことの出來るは中々繪畫の比ではない、又神妙の域にさへ入れば彫刻や建築と等しく、目に見る樣に手に取る樣に、實物を寫し出すことが出來る、ゲーテやシエーキスピアーの作などは、其の言語には、充分の音樂を存して居ると云つてよい、又其言語の力ある、其形容の眞に逼つて居るは遙に繪畫彫刻の上に出て居ると云つてよい、是に由て觀れば詩歌は美術の集大成である、昔の人が詩歌の効力を稱へ鬼神を泣かすと云つたのも、決して誣言ではない。

右陳べた所で、大概ね美術の種類と、其相互の關係を知ることが出來る、そして今茲に我等の問題に答へるのは、左まで六ケ敷いことでないと思ふ、日本人は前云つた、諸の美術に富んで居る乎、若し諸の種類に富んで居なければ、其中の何に富んで居るかと、云ふことを考ふれば、それで我等の問題に答へることが出來る、又此外に其問題に答へるの道はないであらう。

西洋人が時々日本國を評して美術國と云ふは、如何なる美術を指して云ふのである乎、思ふに、漆器、磁器、根附、劍柄屛風、衝立、扇、織物の類に過ぎない、若し此の上に加ふべきものがあるなら、繪畫であらう、本年二月英京龍動で美術展覽會のあつた折、日本美術品を陳列したのも、概ね右の如き種類であつた、其時「スペクテートル」雜誌記者が日本の美術を評して頗る趣向に富み、如何にも眞率な所があると云つたのも矢張り器物的の美術を指して云つたのである、西洋人の批評は兎も角も我等自身より考へて見ても、若し我國が美術に富んで居るならば、器物的の美術に富んで居るのである、美術の中最も高等なる詩歌と音樂に於ては、我等が西洋人に

對して〻其樣な言を吐くとは出來ぬ、殊に我國固有の「ポエツリー」即ち式島の大和心の表れたものと云ひ來れる和歌は未だ甚だ小供らしい所を免れない、和歌には若干の固有の美質あるにも拘はらず、大躰より云へば到底も支那の詩とは肩を併べるとは出來ぬ、之は盲目なる和學者を除いては何人も承認するとであらう、又戯曲や謠文の類には大に重寶すべきものがあるも、又役者の技倆には、如何に巧みなる所があるも、美術的文學上の著作としては、我國の脚本類は到底も西洋の大家の作とは同日に論ぜらるゝものではない、或人は素より音樂の才に長じ、詩歌の才に富んで居るけれども、未だ文明の程度が卑いから發達せぬのであると、云つて罪を時代に歸するかも知れぬが、今迄の歴史に就て見るならば、日本人に殊の外に音樂と詩歌の才があるとも見えぬ、又ホーモルの詩や「ニーベルンゲン、リード」の時代を考ふれば、容易く罪を時代に歸するとも出來ない、今迄日本人が爲し遂げた所から考ふるならば、一種の美術に長じて居るからと云ふて、他種の美術にも矢張り天才を具へて居ると推論することは出來ぬ。

或人の考へでは、東洋の美術は漠然として居るが、又幽邃な所がある、夫故明晰判然として居る所には、東洋の美術は固より希臘の美術と較ぶるとの出來る者ではないが、然しまた希臘の美術より高尚であると云ふ、是は固より一理ある考へではあるけれども、是を以て直に日本の美術が殊に幽邃高尚であるとは云へぬ、宏大な所、幽邃な所、又之に伴ふ高尚な所は、日本の美術よりも、寧ろ印度の美術にあると、云つてよい、日本の美術は寧ろ「をかしみ十分な」方である。

我等が今迄論じ來つたとが間違つて居らぬならば、日本が美術に富んで居ると、此頃人々の言ひ囃すのは、日本が器物的の美術に富んで居ると云ふとである、而して器物的の美術は美術の種類の段階から云へば、繪畫若しくは彫刻以下のものである、夫故若し日本の國粹は日本人の美術的の觀念に存在するならば、日本の國粹は器物的美術の觀念に存在すると云はねばならぬ、而して若し日本の國粹は此の如きものと定まるならば、玆に一つ我等が考へねばならぬとは、重箱や、茶椀や、團扇にどれ程の思想と感情を込めるとが出來るかと云ふとである、固より予が玆に云ふ所は、我國の器物的の美術は毫しも價直ないものと云ふのではない、其種類の美術としては、實に結構なものである、又目下美術を奬勵するは無益

だと云ふのではない、或西洋人の云つた樣に德川氏の時代に日本の美術を生長せしめた原因が、維新以後は消滅して居るかも知れぬ故、今美術を奬勵するは、甚だ望ましいとである、又今後日本人は今迄よりも、尙ほ高尙な美術を作り出すとが出來ぬと云ふのではない、然し日本人の美術心は、日本の國粹と爲すに足るものと思ふとは出來ぬ、我等が美術を奬勵せよと云ふのも、我等が既に高尙なる美術の才に富んで居ると自信して云ふのではない、却て高尙なる美術には我國は他國と較べて見れば、決して進んで居ると云ふ方ではないから、然云ふのである、我等は誇つて云ふのではない、寧ろ恥ぢて云ふのである。

美術を奬勵するには、美術の敎育が肝腎である、學問には學問の敎育を要し、道德には道德の敎育を要する樣に、美術にも亦美術の敎育がなくてはならぬ、而して此美術の敎育が、奇怪偏僻の弊に陷らぬ爲めには、當今最も正確と知られて居る、審美學上の學理に其敎育の基礎を置かねばならぬ、且つ美術の敎育は、婦女子の敎育には甚だ緻密な關係を有つべきものであるから、此點には婦女子の敎育を以て自ら任ぜらるゝ人々の格段の注意を願ひ度い、女學校にはどれ程の美術的敎育を入るべきかと云ふとは、其人々の宜しく考ふべき問題である、一國の婦女子が有つて居る美術的の觀念は、其國の風儀に取りては、頗る緻密な關係の有るものである。（完）

〇海外拾葉第一　田邨武治譯

余の海外に在るや講習の餘暇百般の典墳に涉獵するを以て消閑の具となせり又錄して以て後に傳ふべきものある每に必す拾て之を蒐め以て後日の材料に備へり故に新聞より稗史より詩より散文より其來る所一ならずして實に縹緲たる大洋に臨て打來る波間に玉なす藻草を拾ふに異ならず或は恐る遙々西半球より東半球に移したるとなれば當時美麗なりし藻草も今は色渝濁穢して貴孃への御贈物には少々不適當なるべきを若し御氣に入らねば御庭の金魚に與へ玉へ

婚姻の外に敎育さる可からず

余輩は嘗て、ウパッサー大學（米國有名の女子大學）の卒業生姓名表を觀て、其伉儷の禮を擧げざるものゝ多きとを發見せしは、實に大に吾人の注意を惹起せし所あり、蓋し特別なる理由ありて、ウパッサー女學生は婚姻を嫌忌するとなるべきも、此風獨り該大學にのみ蔓衍するものに非ず、凡そ規程の高尙なる學校にして、女子亦同質を帶ぶるものは、何れの地を問はす、皆一般に忌婚の傾あり、唯或る少數のものゝみ大學を卒ふるの後、人に歸ぐものあり。

余は問んとす如此く敎育されたる婦人にして、猥りに婚姻を阻むの傾向あるは、寧ろ社會に取て好結果を生ずるものあるや否、蓋し高尙なる敎育を受たる婦人は各自獨立して、社會に

對し總ての權利を享有するの新路を開くを以て、兎角他の爲絆を脱せんとすると同時に、又他の一方には頗る可憐の情態を生じ、唯々自家供給の道を求めんが爲に、婚姻するもの亦寡しとせず、之を要するに二者倶に喜ぶべきの現象に非ずして、寧ろ之を嗟歎せざるべからざるなり、蓋し過不及兩ながら斃あれば、吾人は最も恐るゝ所なくんばあらざるなり。

抑も妙齡の婦女子が、自助の方法、獨立の考案等を慮るも、到底資産の我が生涯を扶くべきものなき時は、假令ひ、婚姻に由て生を他人に依するとを免れたりとするも、安全の策なりと云ふ可からず、何となれば、其歸ぐ所の人にして、果して其身を依すべきの才能、或は財産ある人なれば好し、若し左もなくば自家の位地を考ふれば、却て婚姻前だけの、快樂幸福を享くると能はざるとあればなり。

然と雖も吾人は未だ嘗てウバッサー女生の如く、婚姻を忌むもの、多きを見ざるなり、素より其由て來る所を尋ぬれば、彼の獨立主義を決行すべき學力あるに由るとなるは、更に疑を容るべからざる事實たりと雖も、從來隨分教育ある女子も多き中に、近時該大學女生の如く、一派特別なる風習を釀成せしものとては甚だ稀なるとと信ずるなり、偖て又斯る女學士中にも財産もなくして、遂に人に歸ぐべきも、却て適當なる配偶を撰に苦むもの往々にして之あり、其原因たる種々なるべしと雖も、第一無教育の人に嫁するは、勿論其欲せざる所にして、第二には兎角長し短しにて、自家と對等なる學識を備へたるもの、容易に獲難きに由るなるべし、斯は正さしく男子に取りても同一の趣ありて、有學の士は屢々其配偶を求むるの困難に陷るものなり、蓋し婦人の斯る有樣に至るものは、一には學理の優美なるは却て彼の家居内治の樂に超過するものあると、一は中心自ら恐怖する所あると猶ほ男子が己より優れる配偶を迎ふるときは、常に安全なる感覺なき如きの場合より來たるとなるべし、左れば此等の事狀に由て、古來有名なる學者著作家、或は教師などは、屢々其妻を擇ぶに唯々教育の高からず、低からずして、其中を得以て善く家政即ち内治の務に長じて、子女の模範たるべき資格あるものを以てするとあり、然れども之を書生流の考より論ずれば、如此きの妻女は俗物の如く思はれ、其地位も亦第二流に屬する如く見ゆるものなり。(未完)

嘉名ハ大なる富にまさり、恩寵ハ銀また金よりも佳し、富者と貧者と偕に世にをる、凡て之を造りし者ハヱホバなり、賢者ハ災禍を見てみづから避け、拙者はすゝみて罰を受く、謙遜とヱホバを畏るゝ事との報は富と尊貴と生命となり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○文部大臣の女子教育說

子爵森文部大臣が、當秋奥羽六縣の學事を巡視せられたる際、教育上の事に關し說示せられたるの要領を一冊に纏め、此頃其一部を惠贈せられたり、中に付き女子教育に關するの要領を見るに、實に左の如くあり、

次に女子教育のことに就き述ぶべし前に不就學者のことを述べしが其不就學者中の多數は女子なり抑教育の點より觀るときは女子の教育は男子の教育に比して更に重且つ大なるものなり若し女子教育にして完成せば小學校の設立を要せざるも可なる程のものなり凡そ子は男女に拘はらず皆母の手又は叔母姉等の手に養育せらるゝを常とし而して兒童の氣質は概して其間に定まるものあり若し女子にして教育の心術あれば其手に係る所の兒童は皆善く教育の礎を得るのみならず尙ほ其上の發達をも得て小學校の教員を要せざる位まで達し得べし蓋し女子は天然の教員と稱して可なるものあり夫れ然り天然の教員たる女子の教育にして今日の有樣を以て荏苒經過せば我國の前途に高き程度の文明は殆んど望みて得可らざるべし序でよ女子教育に付き附陳せん夫れ女子は天然の教員として教育上大切なる地位を占め其兒童を引受くる者なるが其之を教育するに方りて教育の要點ある國家の獨立と云ふことを其腦中に記臆し以て兒童を薰陶せざる可らずされば女子は常に此精神を以て女子と雖も國家の爲めには身命を捨てざる可らずとの覺悟をなし而て其引受の兒童に對しては國家の爲めには命を致たすの義心を養成せざる可らず。

日本國近世に於て、男女同權說を初めて主唱せられたるは森有禮君あり、一夫一婦說を初めて極論せられたるも亦た森有禮君なり、而して今ま文部大臣としての森子爵は、女子教育に關して何ほ如此きの說を懷かるゝと云ふ、吾人が欣喜何ものか之に過ん。

○尾崎行雄氏、東西婦人の異同

在英國尾崎行雄氏は、東西婦人の異同と題する一篇を朝野新聞紙に寄送せられ、同紙は之を去る五日より八日に至る四日間の社說として掲げたり。吾人が贊成する能はざるの條目もあれども、要するに全躰の趣き時弊に中りて一種有益の文字と見受くべき所ろ多し、中にも、西國よ於ける社交上の道德の嚴重なるを叙て、

斯る嚴重の風俗なるが故苟も心ある婦人は假令如何なる情感に迫はるゝも容易に其節操を傷つくるが如きことなきなり我が國にても封建時代の古風を尚ほ尊び殘形して婦人其節操を傷つくる者あるに方ては父母は申すに及ばず親戚朋友皆な之と絶交するやう有りたき事と思はる其人の爲めにハ實に忍び難き次第なれど國家の盛衰にも關係ある男女間の風俗を矯正するが爲めなれば忍び難きを忍んで之を斷行せざる可らず。

私生の子、姦腹の子の如きも之を同等の人間とは見做さず其顏を見、言葉を換すさへ穢らはしき事と思ふの習慣を養成するは當然なるべし然らずんば到底婦人の品行を矯正する能はず之を矯正すると能へずして徒らに制度を濫らす樣にては到底婦人をして交際社會に入らしむると能ハず而して交際社會に入らしむるに非ずんば到底其位地氣品を進歩せしむると能はざるなり歐米諸國にて男女の交際自由なるにも拘へらず婦人の身持ち甚だ嚴重なるは唯だ教育の行屆きたるが爲めのみにあらず右義絶の習慣與つて大に力ありと知るべし然るに先づ斯る習慣を養成せずして單に男女の交際のみを開かんと欲するは恰も堤防を築かずして河水を他方に誘導するが如し其汎濫するは當然の理數なり。

と云ふが如きは、吾人が夙に主張する所ろ而して今ま尚ほ尤も贊成する所ろのもの也。

○「粋」の批評の禮評

名古屋佛書店　吉　貝　居

女學雜誌第百三十六號に載せたる「粋」の批評に對し、其の出版元より左の如き禮評を送られたり、

御社益々御隆盛奉賀候偖弊店發行の「粋」を專々發行頂なる御紙上へ御批評被下候段難有厚く御禮申上候懇口……過評……結構々々女學雜誌へ半ページ以上の批評は中々以て安くない。

今度發行せし「滑稽瀉意佛教演説會」へ御誌とは宗教の範なると汝に女學には不要用なる……なれども餘り粋の評の嬉しさに御禮と言ふにハあらされども一部進呈仕候間御笑覽被下度候。

尚近々の中「悉」と言ふ書物發行の心組發行の上ハ是非進呈可仕候間相例「證」の通り御批評願上候。

弊店は朋教雜誌なんどには隨々廣告もあると知る嬢内かも知らされとも其中京と言ふ名古屋第一流の佛書店に（太將たか）御探候宗教書肆にて「粋」の發行れ………

○文覺上人勸進帳を讀む（其二）

不知菴主人

文覺上人勸進帳を讀むへは。學海先生の外に川尻寶岑氏なる影武者ある事を了知せざるべからず。往の勞野拾音は改其文然上りし時願はれしものなれば評判高かりしも。此新脚本に比ぶれば殆んど背壤の差なり。又曾て梅田神垣（川尻氏作）を讀みしに。宗教芝居とは云ひながら興味索然たる感を抱きたり。謂ふに脚色の才寶岑氏こう優りて文字の才先生遙かに其上に出るものならん。されば此勸進帳の如きゃ。先生が文學と寶岑氏が趣向とを混合して。以て完美を致したるものなるべしと思はるゝに。先生の名は大雷の如く轟渡り。「吞の翁生」と出ふ小學生徒も是を耳にするほどとなれば。御合作とあるにも關らず。先生獨り標的たるは寶岑氏の爲め悲まざるを得ず。學海先生の序文にも「寶岑氏の勞力は安宅の襟度とやいふべからん。余は笈を荷ふてうのあとより從ふべきにこそ」とあり。是は先生が謙遜なりと雖とも。見る人無海なる大名にくらみて寶岑氏の名を埋沒する勿れ。識に濟談は古書の技習にして思量鐵は瓜附なりと云ふ如く。昔より何かにつけて伴長居然及龍谷前士は男合に用る事なるが。是と仝じく文覺上人も早く我が芝居の材料となり。南瞻部に作供養。伴ひ院宣等あるのみか。國四郎國生人道は享保の頃文薀を勤め。五代目團十郎も天明年中今役を勤めたるほどなれば。別段目新らしくもなく。渡邊橋は勿論其外の場とても有觸れたる事なり。唯白河御所の場のみ新案にして最も當目すべき點なり。されば こそ文覺上人勸進帳と日ふなるべけれど。今第より奇ずれば此外題は大に相應しからぬが如し。總じて芝居の脚色作ずる時は洋骨及大詰にして其間は行路たるに過ぎず。然るに此脚本は普賢院の宗設持を以て大詰に起し。伊豆流罪に結びたるなれば。其趣向は齋氏の隨降に有つて。文覺の勸進帳を朗讀するは僅に其一部分なり。其一部分を取て全部に名くるは東海道を指して箱根と云ふが如し。殊に其末要は文覺が勸進帳を朗讀するにあらずして院宣を頼朝に授くるにあれば。縱ひ此外題は漏れりといふべし。東海道を都登り或は京上りと云へば兎も角も箱根越と云へば何人も失當の言たるを知らん。論じ終りて評は安宅勸進帳の名を借りて評判を得せんとするか。否な我の徒に頼りてお芝居を見はんとするか。世間に名もなきエセ作者ならイザ知らず。學海先生とも云はれ川尻大人とも謂はるゝ方々に似合ぬ事と思はる。（因に申す。惟村ぬしが設けしの精神なる表氏に用ゐられしは何なるやと責せられしが。是は却て道理ある事にて。木村高き氏の名案とも思はれざる事なり。）

さは日へ本文は元より作者の方も可はれ。立案は猶未だしと文章に至き余が贊評を述べされ。眼子共見を記して大方の高評に資さん。

序幕　第一の場の立に「頃合なる櫻の立樹をあしらひ。花盛りの模樣」とあり。模形を演ずるに文覺が高雄に來りしは十二月二十七日にして。平家物語に「雪は次第に深くなる」とあれば。花盛の模樣にては面白からず。是は竹の舍主人が日はれし如く。正史の本文に從ひ。極樂寺の場及白河御所の場を對

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

照して雪月花とする方よし。シカシ序幕は大抵花やかなるものなれば。雪景色にては陰に落るの嫌もあれど兎に角删潤を加へたきものなり。(一頁)

延壽の詞に「兩親始め夫にも世を早ふ致しました」とあれど。平家物語及其他の史に依りても長者大炊が娘延壽とありて。大炊は猶在世なしたり。賤ち正史に拘執するにはあらざれど。延壽の父を出す方興味も一トしほ深かるべし。(三頁)

歷史には夜叉御前は十歳とあり、此脚本には十二歳とあり。何れにしても大差なければど其詞大人びて十歳前後の兒供と思はれず。中にも二十三頁に「お命全ふして兄上樣」とある如きは。今少し頑是なくする方一層悲哀の情を重ぬべし。

次に復た歷史の本文に從へば賴朝は延壽の許を落延び關ヶ原にて捕へらるゝなり。尤も杉原平家物語には此脚本の如くなれど。一ト先靑墓を落ち再び關原より捕へられて長者が家に立寄る仕組にしては如何。是は考へものなり。(斯く些細なる點に一々歷史を持出すを欲するにあらざれど。舞臺に上せた處で少しにても面白からんを願ふ爲めなり)

渡邊橋の場。村役人の對話申分なし。(自二十頁至三十六頁)

袈裟が詞「身には過ぎたる夫を持ち」云々は後段の伏線と思はれます。作者の用心敬服と申したけれど。文格に疎き余には解らず。(三十七頁)

二幕目　久六が袈裟衣川のいはれを聞くと。直樣「今日は内に用事があつた私は是にてお暇し升う」と曰ふは。あまり現金すぎたり。此間今少し臺詞ありたし。(四十四頁)

盛遠の詞「戀に焦れて起伏の身は空蟬のもぬけのから」云々は。面白し又面白からず。(五十一頁)

渡邊敷の場に爵及麻衣を出せしは老手。

石橋忍月ぬしも難ぜられしが。袈裟うるさくも仝じ言を繰返すは惡し。學海先生曾て手習鑑寺子屋の段小太郎母去らんとする時の光景を評して曰く「若多費レ語豈不識二破秘肉苦計一」と。先生以て如何となす(自七十頁至七十四頁)

袈裟が詞「ハテ身共が寢所へ」をある人は改良家の作にも似合ずと評されたが。余の低度なる眼を以て見れば別に猥褻とも思はず。大内鑑に「其夜蕊々しつぼりと寢てからがなほ好イ男」といふ句あり。是は隨分猥味の文字なれど寢所位は左迄とがむるにも當らじ。セキスピヤにも To comfort your bed (お寢間の端を汚す) の句ありと記臆せり。芝居脚本は修身講義にあらざれば。斯る些末なる文字に拘泥して無味談話となすべからず。(七十五頁)

極樂寺門外の場。彫琢を用ずして文字活動す。著者が才藻紙表にあふる。敬服々々(七十九頁)　(未完)

叢話

○英國總理大臣の女子撰擧權の議

英國總理大臣サウリスベリー侯が、女子に國會議員の撰擧權を與ふるの議に贊成する旨の演說を爲したる趣き、去月二日發ルートル電報によりて、天下に響き渡り、我國の諸新聞紙も亦た悉く之を記載したり。

此事たる、平素彼國の女權の有樣を聞及ばざる人々には、極めて驚ろくべき事件あるかの如く聞こゆるならんが、此は每度本誌の外報欄に於ても記るしたるが如きの進步より來りしとにて、別段に新奇異樣なる變動にはあらずと知るべし。抑も英國に於て、國會議員を撰擧するの投票權を女子にも附與すべしとの議論は、既に今を距る五六十年前の比ろより起り初めたるものにて、蓋し一千八百三十二年八月、ハント氏が其の願書を下院に差出されたるの時を以て、大議論を生じたるの發端となすべし。之よりして、「ロバート、ピール」、「リチャード、コブデン」、「サイリアム、フホックス」の如き諸名士が可成りに之を贊成したると、「ベンタム」、「スペンサー」、「ヘール」、「ミル」等の諸學士が熱心に之を論辨したるとに由りて、此の議論いよ／＼大層にありたるが、千八百六十五年

彼の哲學者たるミル氏が國會議員となつて議場に出席したるの日より、此の議論は啻に口上の空論たるに止まらずして、實に政治海を動かすの大問題とは爲りたり。斯て彼のデスラエリが議場に於て賛成の演説を爲したる以來、亦たミルが數千人の女子請願者の姓名を記るしたる自分にも擔ひ負ふせぬ程の大請願狀を議場に持出したる以來、更らに甚しく輿論を動かし、之よりしてソマービル夫人、ナイチンゲール孃、チーロル夫人、フホーセット夫人、ルーカス夫人、コッベ孃、等續々現はれ出でゝ演説し奔走し請願し、一方にはゼームスブライト、畢生の間だ之が爲めに議場に於て盡力したりしかば、此議論は日に駸々として勢力を増し、遂に既婚婦財産保護條例と云へる者も其の余勢によりて發布せらるゝに至りたり。然るにミル氏死し、ジョンブライト氏反對論の强敵となりし以來、少しく其論勢に一頓挫を生じたるやの趣きありしが、熱心なる先進の婦人等は之によりて毫も氣力を減ぜず、彼のマックラーレン夫人、ハーバートン夫人の如きは相踵いで大なるデモンストレーション(示威大會)を起しなどして、頗よ其の黨勢を張り來りたり。斯て年々に勢力を增しつゝ今日に至りたるとなるが、顧みて過去りし跡を思ふときは確かに此の權を掌握し得るに至るは、未だ近々の事にあらざるが如し、たゞ〳〵其の議論は追々に隆んとなるべし、遂には全勝を博し得べしとの望みは極めて確實也。

此度ソウリスベリーが賛成を表したる事は、固より多少の關係はあれども、左して驚ろくべきの影響はあらざるべし、何んとなれば、是迄グラッドストン氏も賛成したり、チャーレスヂルク氏も賛成したり、而して之は賛成のみにして實際に左程の大影響を及ぼさゞりしゆへ也、況んやソウリスベリー氏が總理する保守黨は、元來此の議論に尤も賛成を表したる政黨にて同氏も從來賛成の意ありしとなれば、此度び之を公にする一場の演説ありたりとも、別に新奇の事にあらずと知るべし、本年ワルター、ブライト、マックラーレン氏が差出したる女子撰擧權附與の議案は、下院に於て左の如き賛成員ありたり、

保守黨	一七三	改進黨	一〇九
分立改進黨	二七	愛爾蘭國民黨	五〇

而して亦た廢棄されたり、然れども此議論の終に全勝を博するとは極めて明白也、現今は最早之を與ふべきか可らざるかの議論にあらず、之を與ふる未だ早し正よ宜しとの討論よの

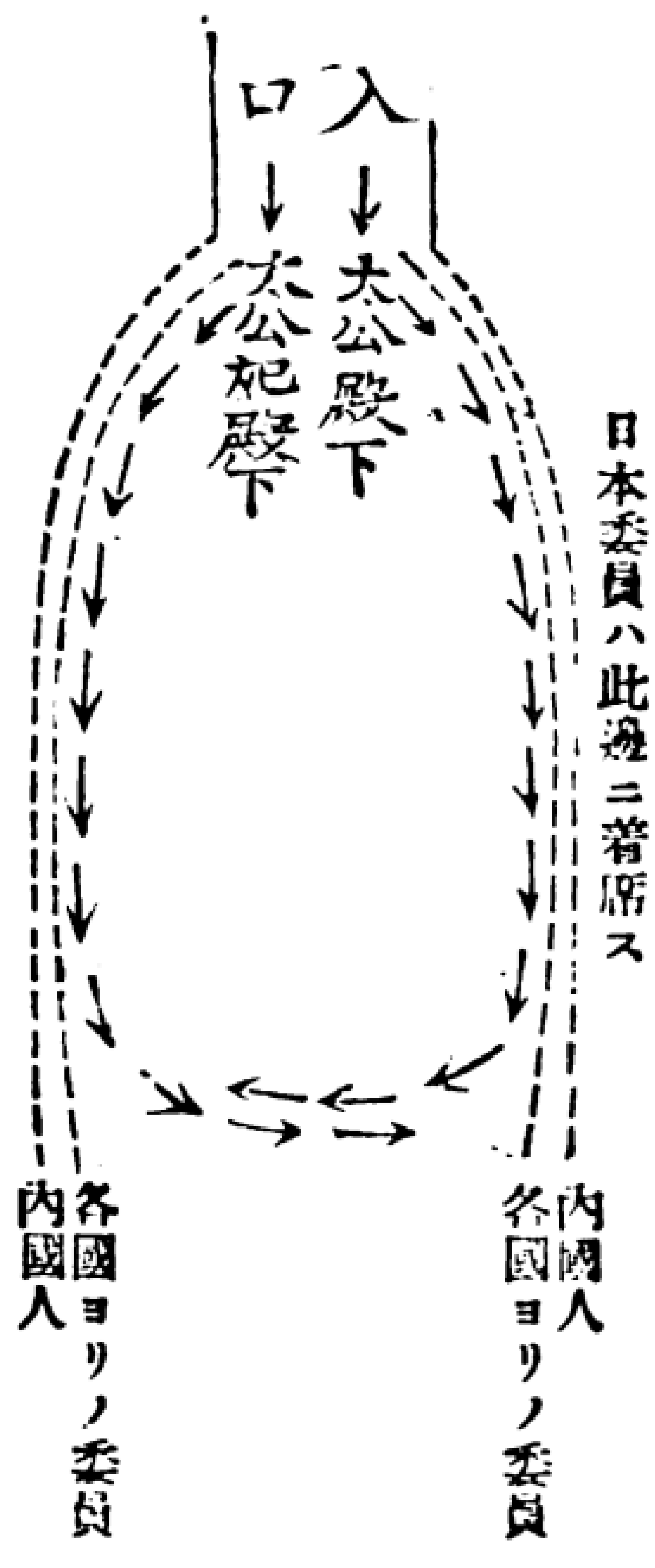
み腰を掛るもの也。斯て人あり、若し之に關する吾人が意見を何如にと問はれなば、吾人は如此く答ふべし、曰く投票權は之を女性にも與へざる可らず、而して女性は之を用ゆるを喜こぶ可からず、と。

○万國赤十字社大會の感（二）　石黒忠悳述

獨逸皇后御篤志の事　右に就て私が松平君と共に感心致したのは、獨逸皇后陛下が、金三千マルクと御自分の御顏を印したる金の勳賞三個と、銀の勳賞六個とを出して、此は赤十字事業を奬勵する爲め、何か能き發明を致した者に與へ度い併し如何なる者に與へて宜しきやは、赤十字の總會で定めて呉れとの仰せを以て、下し賜はりました。此の事を議場に出すに當て、孛漏西國の建議に依て、獨逸皇后陛下に、會員一同より先づ御禮を申上たる上にて、議事に取り懸る可しと主張し、直ちにソレに決して、電信を以て皇后陛下に御禮を申し上げました、是等は殊に限立ちて快き事に存じました。

人民歡迎の事　總會七日の間、朝から晩迄は、議場に居るし、夜に至れば、種々の饗應が有つて、バーデン太公よりの御招待、或は總理大臣、內務大臣、其他貴族豪商會社杯より招かれまして、一日でも餘暇は有りませんでした。會の開きます前より、議事順序と、饗應の順序とが、既に定り居ッて、申すも中々愚かなる事で、赤十字總會を其の地に開かれたる爲め、カル、スルーヱは申すに及ばず、バーデン全國、實に御祭の如くにして、同盟國の委員を鄭重に遇しまする有樣は、實に文明國の民で有ると、實際を見て倍々感心を致しました、是より饗應の有樣に就て御話し致しませう。

會塲席順の事　第一日（九月廿二日）。晝間は議事にて、別に事無く、夜に至りて、バーデン太公國總理大臣兼內務大臣チユルバン氏の招きを受け、立食の饗應が有りました。會闌なる時に、バーデン太公及び妃の兩殿下御臨席遊ばされ、各々會員に始めて對謁せられました、爰に御來會の貴婦人中には既に外國に御出の方々も多き故に、御承知の御方も有りませうが、一寸對謁の順序工合に就て申しますれば、



日本委員へ御對話の事　右の如き有樣で、必ず太公及妃殿下

より、各國の使臣に、一度宛は御話しが有ります。委員の席順は、エービーの順で、私共は英吉利と意太利との間に席を占めましたが、太公は日本委員に對して仰せらるゝのに、此の會に臨みたる各國の中で、卿の國が一番に遠い、貴國が特に卿を派遣せられたのは、我カルヽスルーエに開きたる總會の光榮で有る、予は永く之を紀念して忘れまいと仰せられた。日本委員は答を呈して申しまするには、我日本國の本會に加盟したるより、始めて此の地に會同致したるは、實に光榮の事で、使臣輩而已ならず、我邦人も永く紀念致すで御座りませう、且、カルヽスルーエの景色の佳き、又殿下が厚く會員を待遇給ふ事は、使臣が最も感銘する所で御座ると申しました。猶太公は、小松宮殿下御兩所には、伯林で御逢申したが、今何國に居らるゝかとの御問が御座りましたから、左樣只今は土耳其に御在遊ばしますと申した時、遂に伊太利の使節へ移り、對話せられました。暫くして、太公妃殿下は廻ッて御出になり、日本委員に仰せらるゝには、獨逸婦人の赤十字に熱心ある事は、現在卿の見らるゝ通りで有るが、庶幾くは貴國の婦人も、此の事業に盡力せらるゝ樣との事でありましたから、自分は則ち、本邦婦人が此の事に熱心なる有樣及び婦人看護會等の景況を述べて、御答へ申しました。暫くして、太公の御妹(御年齢は四十二三に見受けました)御出ありて、貴國婦人の赤十字事業に熱心ある事をば皇后陛下は之を嘉し玉ふやと仰せられましたから、御答へ申しましたには、我皇后陛下には、夙に御心を此に寄せさせ給ひ、今を去る十一年前、即ち明治十年に内亂の有りたる時、宮中に於て御手づから綿撒絲を造られまして、之を戰地の病院へ賜り、各傷者に頒布遊ばされた事が御座る、斯く皇后陛下が赤十字事業に御熱心で在らせらるゝから、婦人社會に於ては、續々熱心者を出し、近年は各親王妃殿下を始め、婦人篤志看護會なる者を起して、看護の事を練習して御在遊ばさるゝ趣きを述べ、又使臣が此の地に出發するに當り、皇后陛下は特に臣に命じて、若し赤十字事業に就き萬國中採る可きの美き事あらば、細大洩らさず、之を報ずる樣にとの懇命を蒙りましたと述べましたるに、太公の御妹仰せらるゝには、萬里の他邦に此の如き慈惠に深き貴國皇后陛下の如き有るは、實に悦びに堪へぬ事であると仰られました。(完未)

○婦人の德は餘韻に在り (其三)

中島俊子

何ほ一層にかなしきは、今日すでに中年とあつて、最早勉強

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

することも出來ず、早や一生を定めたる義務の内に置いて、涙の中に沈んで居らるゝ所ろの人です、然し私しをしてモシ言わしめたならば、申しませう、アナタ方、決してお泣なさるな、若し水を酌む役割に當つて居るならば能く水をお酌なさい、肥料を施こす役割に當つて居るならば勉めて夫を與なさい、若し花を切る所ろの鋏となつてお出なさるならば能く切れる所ろの鋏とお成なさい、何故ならば、一つに插まれたる所ろの此の麗はしひ花は、皆な其の手柄を諸君と分つべきものであるゆへであります。實に文明となり切らぬ文明、即はち中途半の文明に立つては、多くの悲しむべきとがあります、實に昔しは出ざつた涙が今は出ませう、昔しは憂ひざつた憂ひを、今は憂ひませう、然しアナタ方どうぞ決して徒らにお泣なさるな、余韻の爲めにならぬ憂ひは決して憂ひなさるな、而して勵んで其の役割をお勤めなさい。

今の男子は婦人に向つて實に深切にします、婦人は窃かに考へて、何故にかくもてなさるゝか、何の價ひあつて如此くさるゝかと思ひませう、然し其の禮節も、其の愛心も、たゞ外面に於て見たる時の事であります、若し二人相對するときハ、滑かなりしと思ひしは以ての外で、吾を愛せしと見へたるも亦た人の見る所ろのみであつた。其時に至り、婦人は大ひに之を憂ひかこち、座敷の一隅に退ぞいて、たゞかなしく泣きませうか、アナタ方、之に余韻があると思ひなさりますか、此の涙だ、此の憂ひは果して何の効能を爲しますか、私しは申します、此處に至つては、アナタ方決して徒らにお泣なさるな、其の出來る丈けの力を盡して男子を清くなさい、出來る丈けの力を盡して男子に禮節を盡させなさい、之が即はち其時に至りたる婦人の受持つべき役割でありませう。若し男子が容易に其樣に成らぬとしても、婦人も亦た容易に其の盡力を止めなさるな、男子が若しいつまでも其樣に成らぬならば、婦人も亦たいつまでも其樣におつとめなさい、到底打ち勝つと云ふの決心を以て、男子に改めしむるが大ひなる仕事でありませう、之には前にも申した如く、日本の女に富んだる進取の氣象を以て必らず貫らぬくようになさい。彼のカスミ、クモ、は一見するに實に力がないようです、然し之を實際に用ゆるときは一種奇妙なる神力をあらはします、繪にもかけず、文章にも作れぬ所ろの、不思議なる趣きは即はち此等の余韻より出で來るものであります。

今ま此の學校に居らるゝアナタ方は、即ち世の中の演劇に出

する下でしらへをして、汽車が東西南北に走り出んとするステーションに立つて居らるゝのであります、此時アナタ方は深く決心なさい、其の見ゆる所ろと見へざる所ろと、深き所ろと淺き所ろとに拘はらず、必らず婦人の長所を持つて、其の役割を貫ぬき畢らせるヿと云ふ決心をお取なさい。其の旅に出られてよりは、千丈の山を攀ぢ、萬丈の水を渡らねば成らぬヿがありませう、猛き狼もあり、厭なる蛇もあらん、然しアナタ方は此の時此の學校で養成したる劒ぎを以て道を開らき、之を斷ち切つて安んじてお進みなさい、而して決心なさい、私は心配せぬ、私しは餘韻を損せぬ、餘韻を添へるのでなくば決して泣かぬ憂ひぬ、と決心なさい。

斯く申し終つて考まするヿ、何か大層エラソウに申たように思れて、恥かしく思ます、然し此明治女學校は私の容るす所の友人の爲て居るゝにより、アナタ方に對しても亦大層親しく感ぜられて、遂に斯く申すように成ました、他日再たびお目にかゝつて、復た申上るヿがあらば實に幸わひであります。(完)

〇婦人衛生一斑(妊娠養生の事)(其八)

櫻井郁次郎述　佃與次郎筆記

運動の事　次に運動と云ふ、是れが大切です。運動の事に就て、私も是れ迄少し調べたヿもあるから、一寸お話しますが、縱令妊娠をしても、仕ないでも、總て人は運動をしませんければ、身體の働きは充分ではありません。然し運動にも、程合があつて、過激の運動などは、惡るい、或は重きものを擔うなどは、往けません、其中で、最も宜しいヿは、逍遙と云ふて、徐々意に任して散歩するヿです。體操も程能く筋肉を動かす位で宜しい。パッシーブの運動と云ふて、人の爲めに動かさるゝことなり、脊中を摩するとか、按摩して貰うなどは、妊婦の爲めよい、時々行ふて宜しい、併し腹を摩することは、ソレ／＼其技藝に長じて居るものゝ外は、決して妄りに人にさすらするヿは出きません。

人力車は妊婦に大害ある事　其運動に就て私の調べたと云ふのは、彼の人力車のヿです、人力車は妊婦に如何であると云ふに、是れは甚だ宜しくない成蹟を得ました。昨年調べたのは、百人の流産者の中、二十五人は、正しく人力車の害に因て早産したのです。親類に病人があるとか、田舍から急に東京に出て來たとか、三里五里の遠きより車を走らせたるの害です。次なる五十人は、全く病によりての流産、殘りの二十五人は、其原因の不明なるものであります。シテ見れば、東

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

京を離れた人力車の無い世界では知りませんが、東京で全く其の害の四分の一なるとが解かります、既でに、其の害の四分の一なるを知りましたから、能く此邊に御注意あらんとを望みます。然らば、若し用のありて遠方に行くときは如何にせば宜しいかと云ふに、成るべくは遠くには往かぬが宜しいが若し行くなれば、人力車で徐々と挽て貰うとか、寔と好き意思ではありますまいが、籠です。漢方の醫者か、病人か、餘り躰裁は宜しくあいが、籠がよろしい、是れは害が無い様です。併し是れから段々擔ぎ人が下手になれば、動搖して安全のものとは言はれませんが、若しも近所に人力で行くなれば、腹部を突衝するを防ぐ樣にすることが肝要なり。車には年に一度とか二度とかと、滅多に乗つたとの無い人は、必ず非常に腹部にあたります。ア、車が向ふから來た、犬が寝て居る、ハッハッと思ふと、餘計に腹に突衝する、それ故に口を結んで、下腹に力の這入る様に注意すれば、格別の事もないが、乗りつけぬ車に乗つて、大きな口を開いて居れば、ガタンガタンと腹に響けて、其害は一層に甚だしき様に思ひます。妊娠の養生法に就て、倘ほ少しく述べ様と思ひましたともあるが、本日は餘義ない用事がありまするので、是れで御免を蒙ります。（完）

○島田三郎君通信

歐米婦女子の景況一斑

左は十月二十九日倫敦發島田君より嚴本へ向け送られたる私信中の數節を摘錄したるもの也。

拜啓其後は意外に御無沙汰罷過ぎ申譯け無き次第に御座候小生着英後今日に至る迄風土の障りも無之一向修習と觀察とに意を用ゐ居り候爲さんとする事多くして之を爲すの才乏く只日月の經過を惜み家信の外多く文書をも認めず遂に御無沙汰に至りし事は御高恕奉仰候今より後寒冷に向ひ候に付此際少々要所を觀んと存じ近日諸所見舞候中婦人に關する數事左に認め申候小生米國ヱヴアンストンに於てウヰラルド孃に面會し候際小生外遊の志を語り候處悅びて諸事世話致し呉られ米國著明の人々に紹介せられ是によりて大約三ケ月同國滯在の間望外の益を得候事同孃の人に厚く又萬國婦風會長に撰れ候程の人物たると特に米全國に勢力あるを推知致候小生着英後禮狀を認め且英國の友人に紹介を請ひ候處繁忙の中にも拘らず直ちに數通の書を贈られ其中にはジヨンブライト氏の妹ルカス子、パルメルガゼット記者ステッド氏等に對小生の身に過分の文面にて紹介し呉れ候ルカス子は近日都外

に在るを以て未だ面會せずステッド氏には一回訪問尙ほ爾後承はりし約束いたし申候ルカス子に面會せば可申上候事少からざるべしと存じ候當府にマクリーン孃と申すはスカットランドに生れ幼少より信仰厚く學校卒業後當府のチーコテス、ハウス（有志の婦人小年の勞役者を敎授する所なり）に於て働きし後支那に赴き又日本に至りて盡力せし人にて年齡五十以上なるが日本より歸り候後は一向日本の爲めよ英人に說き今日の日本は基督敎の爲に大切の時期なりとて近日一小册子を草し其實見の狀を出版して之を配布せしが有名なるスポルジオン氏此小册子の極めて有益なる旨を其端に書し申候小生植村氏と共にマクリーン孃に面會し之により知己を得ると多く大に便宜を得申候近日當府の有志婦人の集會にて日本の近狀を演じ候處一同大に悅び中には日本に赴き盡力せんと申し候者あり又は日本婦人敎育の爲めに間接に助けを與へんと言者あり明日は當府某病院の幹事クート氏夫妻主人となりて日本の爲め特に小集會を催すとに相成候小生只今はマクリーン孃の友人チーン孃の家に寓し申候此人も少き節チーコテスハウスに於て盡力せし人なるが身躰餘り健康ならず之が爲めよ當節は烈き働を休み其親屬の女二人を引き受け敎育し居り候

（此二女の親は鐵道建築士にてスウエーデンに赴き候に付き其子を英國にて敎育し居るなり）同孃も極めて信仰厚く日本の曙光に向ふを聞き特に近年婦人敎育の道緒に就くを悦び餘財あらば之を助けんと欲すれ共財を以て助くるの位地に在らざればセメテは日本の有志者に便利を與へんと申し百事心を盡して世話いたし呉れ其懇篤なる感ずるに餘りあり總じて歐人は東洋に向つて倨傲なりと申すとは豫ねて承り居り候處小生の實見する所によるに有道の人々、有識の人々は男女共に謙讓にして親切なると想像の外に御座候（未完）

小説

○哲女の卷

（第九回）　花散里（中）　月の舍忍

お歸んなすッテ、寒かッたでせう子ー、チヤく大層雪が着てサ、コレまどうでせう……コレッ……

云ひつゝ手巾にて雪を拂へば、好は漸やくホット息をしたる躰にて、初めて温たかに笑ひ、

有がたうよ、大層遲くなつて子、さぞ又た御膳仕度に心配なさるだらうと思つて、早く歸りたかつたのですが、常にない相談が長くなりまして子、ツイ今まで。ソウ、切てお歸んなさる迄にと思つて、仕かけたんですが、どうしても……

と言ひ掛けて、下を向きホロリと涙を落したり、好は一層の感じの湧起するを飲込みて、笑ひにまぎらし、

子オ、、又たけむつたノ、私しが歸る迄お待なされば好いのに、どれ此のプロフヘッソル（大先生）が仕掛ませう。マ、ちつと温たまつてからになさいナ。

イ、エ、いくら竈の方が温たかいか知れやしませんワ。

早くも身を起して彼小き台所へ隱遁し、其處らの散張つたる様子を見て、あゝ〱出來もせぬのに斯も遣て御覽なさるほど、此私しを思つて下さるのか子ー、夫につけてもあの樣に敎育したは皆吾父の罪であるし、其を此の樣な所に困苦さするも必竟は亦た父の罪であれば、私しに少しでも其の介抱が出來るは切ての罪ほろぼし、有がたき務めぞと心に勇んで、ポッキと折る、薪は知れど人知らぬ、胸に思ひの相愛乙女、

お好さん、そして今日は何の相談でしたノ。

學校に子、まだ幼稚園がないのですから、今度之を設けよ
うと云ふ相談でしたが、どうやら大抵出來そうですよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

そう、夫は善とチー、而してアナタの得意の所ろが出來るのですから、尚更ら善とチー。

チ、夫れ〳〵、アノチ其時北川さんに會つたノ、すると大層怒つたような風をして、寫本は出來たらうか何だらうと問ひましたから、判然は分りませんが、モウ大方今夜で出來上るでせうと言つたノ、スルト若し未だ出來上らないなら早速返して貰ひたいと言ひなすつたが、何故あのように怒んなさるのか、少つとも分らなかつたワ。

怒つたつて、何故でせうチ、原稿に時々非常な間違ひがあるから、信切に直して遣りましたが、お禮をこそ言ひなされ恐ると云ふとが……

エ、直して遣つて……

ハア、どうも非道い間違ひなんですもの、此間も舊鼠反つて猫を噛む、鼠も舊るくなれば猫を噛む通り、佛敎でも日本に舊るくなるから、眞敎を噛むともあるのだ、と云ふんデスもの、其樣字の違ひはまだしも好のですが、中には丸で意味が違つて居ますから、其の所ろに一寸つと張紙をして考へを書いて置きましたワ。

あ丶、夫れでです。

……夫れで怒つたのですか。

……でせう。

哲女はホット太息して、滿腔一時の慷慨を洩らし去りつ丶、扨て最と悲し氣に申すようは、

チー、それですもの、牧師でさへそれですもの、世の中は迚も道理計りでは行われませんよ、本に青山さんがお言ひなすつたとを思ひ出しますワ。人は決して、此方で思ふ丈けに思つて呉れないものですから、幾ら深切に仕て上なすつたとても、向ふは喜こびは仕ませんワ、……夫にしても青山さんは何如なすつたでせうチー、あの手紙で私し供の志しが十分に分つたでせうか。

夫は確かですワ、青山さんには私し供が誤解さる丶とはありませんワ、斯やつて此處に居ると云ふとは定めしモウ知つて居らつしやるでせうが、あのように書て置いた精神が分つて居るから、尋ねてもお出なさらないのですワ。

そうでせうチー、切度あ丶云ふ方だから、一層心配していろ〳〵と思つて居て下さるでせうよ。

哲は急に立ち上りて、臺所ろに來り、早くも鍋の下されたる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を見て感歎しつゝ眺め居れば、好は直ちに釜を掛かへて水を杓に二三杯入れ、直と皿茶碗を洗つて布巾にて拭ひ初めぬ、哲はボンヤリと立つて高家のお孃が庖厨のお三に戯るゝ躰なりしが、此時頃はかに心付て、

イヱ私しが拭きますよ。

イーヱ、よう御座いますよ、夫れから子、今日の新聞紙で見ますと、青山さんはいよ〳〵辭職なさつたさうです、夫れにお可笑と云ふのは、時事新報の雜報に、あなたの事が書いてありましたワ。

ソウ、何んと云つて……

後のお笑ひ草に取つて置うと思ひましたが

膳は既に出てたり、茶碗も皿も規則通りに相並びぬ、好は陳平を氣取つて大根の菜を甘くも分配し乍ら、

ソノ子、あなたが華族女學校の敎頭に聘せられると云ふノ、大變ジヤありませんか。

驚ろくジヤアありませんか、善加減の事を書いて計り居るんです子ー、……があの青山さんの事は別に何とも無つて。

兩手に膳二つを提げて、彼の書齋と申したる食堂應接間寢間上り口兼躰の別室に入り來り、但し來ると云ふほどにあらずたゞ臺所より一またげにて此所に入り込んで、之を其の眞中に据へつゝ、

國民學院と云ふ私立英學校を開かるゝ風聞ありと、ありましたが、夫れは大方本當でせうネー。

そう、とう〳〵爲さるの。

佳傳

○リンダギルバート孃の傳

生偶々米國ボルリントン自由新聞(十月廿五日發兌)を讀む紙上有名なるリンダギルバート孃の記事あり抄譯貴社に致す主筆岩本兄の一言を付して貴紙上に掲載せらるれば幸甚

十二月三日　　毎日新聞社　中川永輝

女學雜誌記者足下

米國同權黨はニユーヨーク府のリンダギルバード孃を大統領候補者に指名せり抑合衆國同權黨(Equal Rights Party)の進歩は其會員の增加を以て知るべし曩きにベルヴア、ロックウード女史か大統領候補者たる輿望を得らるゝや世上或は之を是認せざるものありしが今回はリンダア、ギルバード女史大統領候補者たる輿望を得られたり。

リンダア、ギルバート女史（Miss Linda Gilbert）は一千八百四十七年五月十三日ニユーヨーク州ロッチエスターに生れ年四歳の時父母に伴はれシカゴ府に移り後「シント、メリー」の學校に敎育を受く女史夙に監獄及び囚人の改良に志を起し囚徒をして社會の有用者たらしめ以て世に犯罪人の跡を斷んことを計り大に此事に力を盡し其目的を達せんが爲め獄内に書籍室を設置し各獄中に千五百册乃至二千册の書籍を寄附し各所にある者を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

算すれば無慮三萬册の多きに達せり今より十二年前ギルバート囚獄書籍協會をニューヨーク府に設置せられ女史自ら其事務を幹理せられしも奈何せん千八百八十三年以來資金の欠乏を來たし該會を維持すること能はざるに至りしも女史ハ尚ほ之に屈せず單身其事業に從事せらる女史亦工藝に關する數種の機械を發明せられしが就中無音滊車軌道及び衣服の留針等ハ皆專賣を許され普く世上に見る所なり女史が事業に費したる資金の如きハ「租税及貿易史」と題せる女史の著書より得る處の者を以て當てられたりと以て女史の人と爲りを知るべし。

編者云く、右同權黨の景况に付ては異日承知する所ろを述ぶべし

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○宮廷錄事

皇太后宮は去る六日鹿鳴舘に於て開設の婦人慈善會へ行啓あらせられ幹事の向へ諚を賜ひ續て列品塲御巡覽物品御買上在せられたり同日皇后宮陛下も行啓の御內意にあらせられしが御不例に付き室町典侍を差遣はされ物品御買上相成りたる由に承はる

○婦人慈善會

去る六七八の三日間、鹿鳴舘に開かれたる同會の來客及び賣高、左の如し。

六日	三七〇八	二一〇〇圓
七日	七三七八	二二八〇圓
八日	一一二三八	七九六二圓

○音樂教師

東京音樂學校に於て曾て招聘せる音樂教師澳國人「ルトルフ、ヂツトリヒ氏」は去月四日來着し爾來專ら該校教授に從事せり同氏は幼時より音樂に志し且つ高等の教育を受け千八百七十七年維也納府音樂院に入學し千八百八十年同院に於て「バイオリン」科二等賞牌を得同八十二年「バイオリン」科一等賞牌及風琴科一等賞牌を得同年同院を卒業し爾後職を「ローチエルト」男爵の樂官に奉じ又數維也納府音樂院教授を囑せられたる人なり（十二月六日官報）

○高知縣會の一大快報

去年植木枝盛氏の發議に由り、妓樓全廢の建議を呈することを議決したりける高知縣會は、去る六日の會議に於て、遂に同縣下に妓樓を全滅するの議を可決したり一大快報と云ふべし。從來妓樓を存せざりし地方に於て、近年に至り初めて之を設けんとするものゝある間だに立ち、如此く喬木に遷るの淸地あるは大ひに祝すべきと也、蓋し妓樓の全廢と密賣淫の嚴罰とは併行すべきものなり、一方に妓樓を設けしめずして、而して一方に密賣淫の取締りに寬なるより、遺憾にも害毒大に流行して、遂に止を得ず寧ろ妓樓を公許するを可とするに至るものなり、岐阜鹿兒島等に於ける近年の出來事は蓋し如此き事情に原因するものならん、故に吾人は切に高知縣に望む、願くは先づ妓樓を全廢し、次に嚴密に密賣淫を取締り、而して妓樓全廢の實効果して如此しとの確例を天下に明示せられんことを切望す。

○密賣淫の取締懲罰

我が刑法には、密賣淫者及び其媒介を爲したる者は三日以上十日以下の拘留に處し、又は一圓以上一圓九十五錢以下の科料に處する旨制定しあるに、施政上の都合によりて賤從來は右刑法の明文を實行せず、其の取締懲罰を明治九年來仕來りの如くに地方官に委任し、地方官は明治九年一月內務省乙第九號に基きて、過料三十圓以內懲戒六ケ月以內の制裁を付し居たるに、去る十二月三日勅令第八十號を以て密賣淫の取締懲罰法を改められ、刑法名文の通りに實行せらるゝことゝなりたり。故に密賣者科罰の刑は前よりは大ひに輕ろくなりたり、刑罰の取斗らひの正當に歸するは喜ぶべしと雖ども、吾人は凡そ社會の如此き不德を罰するは、其可成く嚴重ならんことを希望して止まざる者也、蓋し大ひに曲れるの檸を矯むるは强鐵ならざる可らず、密賣の如きは嚴しく之を罰して遂に其の成立ち得ざるに至らしめて可なるもの也。

○東京盲啞學校の第一回卒業生

樂善會員の盡力により、明治九年三月十五日に設立せられたる盲啞學校は、明治十八年十二月一日以降文部省の直轄となりたるが、今年に至り初めて第一回の卒業生を出し、本月一日其卒業式を執行せられたり、而して卒業生の人名學科は左の如し。

尋常科　盲（住岡芳太郎）十八年六月入校　盲（伊藤文吉）十四年十月入學
尋常科圖畫科及和服裁縫　啞（高木愼之助）十四年二月入學
鍼治科　按摩科　盲（伴延二郎）廿年十一月入學
按摩科　盲（小林利吉）廿年七月入學　盲（坂本源助）十八年九月入學
盲（伊東捨三）十九年六月入學　盲（脇屋萬壽雄）十八年六月入學
圖畫科　啞（江島安之助）十三年十月入學
圖畫科和服裁縫　啞（野村ゆき）十五年二月入學

現今入校の生徒は左の如しと聞けり、

啞生	男二十八名	女十四名
盲生	男二十名	女二名

嗚呼自然の賓眼あつて見る能はず、玉口あつて言ふ能はざるの不幸なる同胞も、今や文明の恩澤によりて其の大不幸の幾分を減ぜんとするは、當代の功德實に無上なりと云ふべし。

○正室の名稱　貴顯方正室の名稱には是まで一定の制も無かりしが今度其筋にて各親王殿下の御臺所を妃と稱することに成りしに付き各大臣及び有爵者、有位者等の正室には夫々名稱を附さるゝ趣きにて右は德川家にて正室を御臺所と稱し三家三卿の正室を簾中と稱したる如く稱呼を定めて來年一月より實行さるゝやの說あり。

○女筆生　豫州宇摩郡土居村戸長役塲にては事務繁劇の爲め滝木かめ子秦ひで子川上さだ子の三名を筆生に雇ひ入れたる趣きなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○群馬縣會の廢娼論　群馬縣會にては先年廢娼建議を爲し本年六月限り廢娼の筈なりしも當分延期と爲り目下開會中の通常縣會にも撿徵設の目あり之を議するに當り天野宗忠木暮武太夫高津仲二郎關口二郎中島祐八佃野次郎等諸氏續々起て賛洋公許の不可を論じ廢娼の實行を主張せしが野口茂四郎黑澤信一郎猪谷秀麿等の諸氏之に反對せられ遂に十八に對する三十二の多數を以て存娼論の勝利と爲れりと云ふ。

○彙報　越後高田なる私立高田女學校は新築落成せしを以て去月五日落成式を執行せり○去月廿三、四、五の三日間大坂博物館に開きたる婦人慈善會にて收入したる金額は通券賣渡代二百四十一圓八十錢、物品賣上代千九百八十七圓四十六錢五厘、寄附金二百八十四圓六十三錢五厘有志寄送金三百七圓十六錢三厘なりし由○神戶婦人會は兼て幼稚園を設立するを目的とし既に數百圓を貯金せられたる由○神戶女子傳道學校は去月五日開校式を執行され村上古荘兩牧師アッキンソン教師の演說あり生徒は三十三名にして尙ほ申込あるも謝絕なし居らるゝと云ふ。

外報

(此の欄内自由に轉載を許す)

○罪人の男女　去る比ろマチルダ、ロンドマン孃が女子撰擧權の事に付て演說したる中に米國に於ける罪人の男女別を述べて云く米國の信徒總員中三分の一は男にて三分の二は女也法律犯罪人の數は男十人に付女一人の割なりミシガン州には七百人の囚徒ありて女は一人もなしイリノイの懲治院には男千六百人ありて女は只だ十九人なり。

○スミス女子大學　米國の同女子大學へ去年入校したるは百五十三人にて其內二十五名は撰科生なり故に同校現今の生徒は合計四百五十名となれり。

○淸國皇后　慈禧皇太后は去月八日訓旨を下し副都統計祥氏の女を擧げて皇后と爲すことに定められ即はち光緖十五年正月其の大婚あることとなれり。

小供談

○正直なる小娘　(其三)

ヘッチーは何んと答へました、知らんと言つて虛言を吐いたでせうか、又はクリスチルドが其目の前にあるを告げたでせうか、否エ〳〵たい〳〵其間はるゝ丈けは正直なる答をしました、ヘッチーは臆せず答へました、

ハイ見ました。

そうですか、何處へ逃げました。

私は其迯ぐる道を言ふまいと約束しました。

然しアナタは其を言わなくてはありません、言わないと爲にありませんよ。

イヽエ申しません、私は約束を守らなければなりません。

此時、其隊中の一騎出で來りて「モシ士官私しが問ふて見ませうお任せなさい」と言ひつゝ出で來りたるが、更らに問ひかくるようは、

アナタはヘッチー、マルビンと仰るお兒でありません乎。

左樣で御座います。

そうでせう、私等は彼方に一寸話しを爲なければならぬとがあるのですが、一躰彼の方が此處に居られた時にアナタに何んと言われました乎。

命ちを助かる爲に逃なければ成らんと、仰いました。

左樣〳〵、眞にそうでせう、夫は本當です、デスがどうか遠く逃られなかつたろうかと思ますよ、何ですか其時彼の方は何處に身を逃れようとしてお出なさいましたのですか。

寄書

本號余白乏しく此の欄を省く

社告

女學雜誌代金滯候御方に

催促申上候とも何ほ御拂込無之にあり而も其御住所すら分明ならざる向も候まゝ如此き御方に限り以後雜誌上に於て御催促申上候に付不惡御承知被下度候但し本社は專ら情義を重んじ候心得に有之決して輕々しく右樣の取計らひ不仕候得共何分三四ヶ月以上も滯り居り候上毎々の御催促に一報をも寄せられざる諸君に對しては實以て不得止の處置と御許容あり度預め申上置候也

女學雜誌社會計係

牧師 今非 壽道 君講述
傳道士 山田 茂三郎 君筆記

教理一夕話

全一冊百四十五ページ 定價 一冊三十錢 拾冊二圓五拾錢

右ハ洗禮晩餐禮其他婚姻埋葬教育等ヲ廿二章ニ分チ簡易ニ講述シタル良書ナリ諸兄姉愛讀アレ

發行所 芝愛宕町三丁目一番地 東京雜書館假局

大賣捌所 麻布區飯倉四ッ辻六丁目十七番地 池田書店

京橋區銀坐三丁目 十字屋書店

小兒科外來診察廣告

小兒科外來患者(十二年未滿ノ者)ハ自今毎月水金ノ三曜日午前十一時迄ニ來院ノ者ヲ診察治療ス尤モ其症ニヨリテハ施藥ヲナス

明治廿一年十一月

醫科大學 第一醫院

交詢案内

(催促する勿れ郵券十錢送れ然神に出來れ)

● 雇ひたき方 (甲)

十一 學婢 年齢十五六位のキリスト教信徒にして薪水の業に從事し傍ら英學編物等の攻業に志ありて給料に望なき者を雇度所あり

十二 下婢 年齢廿歳より五十歳迄の基督信者を雇入度者あり

十四 裁縫 年齢廿歳より三十年までにして家内の手助となり裁縫を心得たるものを雇ひたし可成は基督信者を望む但し地方なり

十五 召使 家内の手助けとなり小兒の世話をなすべき年少女子を雇ひたし尤も可成基督信者にて心あるものを望む

十六 召使 市中に小供の世話及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但官員の御内なり

● 雇はれたき方 (乙)

六 奉公 地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人宅にて相入協力勉學致度に付雇はれたき二娘より無給にて何地にてもよろし

七 裁縫 年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇はれ度き者あり華族様か町家ならば大家のかたき内にて築地邊ならば通いても宜しとの其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三 教師 栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教授に雇はれたきものあり可成くは麹町か駿河台邊を望む

十四 洋行 身元慥なる十八歳位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歸米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて洋行を願ひたし

一九 召使 裁縫の教授を專にし其他女子學校等監督兼留守居様の者に雇れたし

二〇 裁縫 年齢十四五才にて華族様か或官員方の御方之内ニ小間使に雇はれたし最も餘暇に裁縫を授けくだされば給料は不申受

二四 奉公 年齢廿三才にして一と通り裁縫もいたし質樸の生れつきにて華族様か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は望み以上に願ひたし

二五 裁縫 裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に教師に雇はれたし

● 喜びのめぐみ

十三 家婢 甲第十三號は先方にて雇入れになりたり

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

巖本善治編
女學叢書 **木村鐙子小傳** 定價十錢 郵税六錢

右は鐙子刀自の傳記にて姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものなり

女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き社説、佳傳、叢話、及び諸家の論説等あり且つ其時々の新報を洩なく掲げたるものなれば、右第一號より第百號に至る百冊を御覽あらば即ち一百人の賢婦烈女の傳記、一百篇の有益なる社説、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年餘間の女の出來事を悉皆承知することを得べし。之を合して机上に備へおかるれば大ひなる婦鑑となるべし、之を選ひ物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓と申しきれぬ寶價候はん、時々の浮たる小説、もしくは一二百頁の婦人論の書物を購讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百冊を左の低價にて賣拂ひ可申候。

女學雜誌初號より百號迄の内何號にても百冊御購求被成候諸君へは特別割引**金壹圓**にて御望の號數取揃へ發送可致候

但し愛讀諸君より續々御注文にて當時欠號三十冊出來致し候に付き一號より百號迄一揃ひ七十冊餘御注文の諸君へは一冊壹錢の割引即ち**金七拾錢**にて發送可致候

府外は別に郵送料七十錢申し受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費を以て御屆け可申候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく早く御注文無之に於ては早々出はらひ可申と信し候

東京々橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

發兌

九月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十月。六日 十三日 二十日 廿七日
十一月。三日 十日 十七日 廿四日
十二月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日

定價

一冊。五錢 郵税。一錢（但府内無郵税）
十冊。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を爲するには右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行一回 前金拾錢（廿七字詰）
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引
但し不道德なる事物の廣告は都て謝絶す
物の廣告は一切無代價にて引受く女學に關係ある書籍雜誌の
著者は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町嚴々堂○同裏西久保櫻川町萬歳堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新肴町長明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文赤堂○同横濱住吉町角田屋百○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淺集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボ｜ド○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版町○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎濱居町晩與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原紘町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知木町三丁目集岡堂○熊本文明堂

明治二十一年十二月十三日印刷
明治二十一年十二月十五日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

巖本善治編
女學叢書
木村鐙子小傳

定價十錢
郵稅六錢

右は鐙子刀自の傳記にて姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものなり

女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き社說、佳傳、叢話、及び諸家の論說等あり且つ其時々の新報を洩なく掲げたるものなれば、右第一號より第百號に至る百册を御覽あらば即ち一百人の賢婦、烈女の傳記、一百篇の有益なる社說、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年餘間の女の出來事を悉皆承知するとを得べし。之を合して机上に置かるれば大ひなる婦鑑となるべし、之を選び物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓と申しきれぬ實價候はん、時々の浮たる小說、もしくは一二百頁の婦人論の書物を購讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百册を左の低價にて賣拂ひ可申候。

女學雜誌初號より百號迄の内何號にても御望の號數取揃へ發送可致候も百册御購求被成候諸君へは特別割引**金壹圓**にて

但し愛讀諸君より續々御注文にて當時欠號三十册出來致し候に付き一號より百號迄一揃ひ七十册餘御注文の諸君へは一册壹錢の割引即ち**金七拾錢**にて發送可致候

府外は別に郵送料七十錢申し受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費を以て御屆け可申候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく早く御注文無之に於ては早々出はらひ可申と信じ候

東京々橋區日吉町八番地
女學雜誌社

發兌

九月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢	郵稅。一錢	（但府内無郵稅）
十册。四十八錢	郵稅。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は 一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を依するものは雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部附の割合と定む

一行　一回　（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す行登なる載物の廣告は社說の｜無代價にて引受く女學關係の掲籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町[illegible]堂　○同芝西久保櫻川町萬[illegible]堂　○同神田區雉子町團々社支店
○同神田區佐柄木町東海堂　○同日本橋區[illegible]明堂　○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂
○同本鄉區元富士町[illegible]春堂　○同本鄉[illegible]町二丁目[illegible]明堂　○同本鄉四丁目文[illegible]堂　○[illegible]　○同日月堂　○同本町六丁目日の出[illegible]
○京都四條通小橋西へ入[illegible]光堂　○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボ｜ド
○大坂備後町四丁目[illegible]　○[illegible]川十五番地伊勢安雜誌部　○宮城縣仙臺大町木村文助
○尾張國名古屋本町[illegible]　○[illegible]國松江新町[illegible]進堂　○廣島縣大手町一丁目早速社
○長崎[illegible]本號　○江州彦根西內大工町新々堂　○相州小田原[illegible]町[illegible]壽堂
○上州高崎田町煥乎堂　○土佐國高知本町三丁目樂園堂　○熊本文明堂

明治二十一年十二月十三日印刷
明治二十一年十二月十五日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地
女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 sen. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY